



ごくまれに  
現れます

# “コッホ現象” について

BCG接種の針痕は、普通は10日前後たないと見えてきません。  
しかし、ごくまれに接種部位が下の図のような反応を起こすことがあります。  
これは『コッホ現象』と呼ばれるものです。



通常の反応よりも強く発赤、腫れ、化膿（黄白い“うみ”）が接種の後3日目頃から見られやすいです。

※接種後、4週間頃の写真のような反応は、通常の反応ですので心配いりません

## ●通常の接種部位の変化

BCG接種後10日目ぐらいから接種した針のあとが赤いポツポツになり、一部に小さいうみをもつことがあります。この反応は、接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後はかさぶたになり、かさぶたがとれると、あと（痕）はきれいになり残ります。接種部位のかさぶたがとれるまでは、もんだり、こすったり、ひっかいたりしないで清潔に保ちましょう。



接種後10日頃



接種後4週間頃



接種後3カ月頃

※ 接種部位の反応には個人差がありますので、写真のような経過になるとはかぎりませんが心配いりません

## もしコッホ現象が起ったら？

### ●変化に気づいたら、2～3日以内に必ず接種医を受診してください

この変化（コッホ現象）が出る場合、お子さんが知らない間に結核に感染している可能性があります。本当に結核にかかっているかどうかを、きちんと調べる必要があります。主治医と連絡が取れないときは、保健所（市区町村）にご連絡ください。ただし、救急外来を受診するほどの緊急性はありません。また現在、子どもが結核にかかる率はごくまれとなっているので、調べた結果、結核にかかっていないことも多いので、あわてないでください

### ●接種の2～4週間後には、腫れも落ち着きます

接種部位の皮膚が赤く腫れ、うみをもったような変化がある場合でも、ガーゼを当てるような処置をしなくても大丈夫です。接種後2～4週間後には針痕が残る程度に落ち着いてきます。